

# 婦人科手術で腹腔鏡導入

やまなし

## 医療最前線

県立中央病院から

《 90 》

県立中央病院は婦人科手術

分野で腹腔鏡を使った術式の導入に力を入れている。主流だった開腹手術に比べ、傷痕が小さく回復が早いため退院までの期間が短くなるのが特徴で、患者の負担軽減が見込めるという。3月には早期子宮体がんを対象にした腹腔鏡手術が、県内で初めて厚生労働省の保険認定施設となるなど環境整備が進む。

婦人科の坂本育子医長(38)

「日本婦人科腫瘍学会専門医Ⅱによると、同科での年間腹腔鏡手術件数は、2012、13年度は40件前後で推移していたが、認定施設取得の取り組みを始めた14年度には、104件となった。最近では1カ月間に行う腹腔鏡手術が開腹手術を上回っているとい

## 傷痕小さく回復早まる

う。

腹腔鏡手術は、小さな穴から腹腔内に挿入した内視鏡や鉗子を使い、腹腔内の様子をモニターで見ながら実施する手法。腹腔内に十分な空間を確保するために、炭酸ガスを注入しておなかを膨らませて行う。

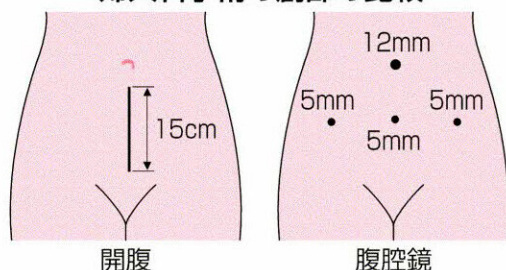
へその下に縦に15センチほどの手術の痕が残る開腹手術に比べ、腹腔鏡手術はへそに1センチほど、その下に5ミリほどの傷痕が三つ残るにとどまる。手術時間は開腹手術に比べ長くなる傾向があるが、出血量や鎮痛剤の使用回数は少なくなる。

腹腔鏡手術を行う対象は、子宮と卵巣の良性腫瘍(子宮筋腫、子宮腺筋症、卵巣のう腫、子宮内膜症)や早期子宮体がんなど。

腹腔鏡を使った子宮体がん根治手術の保険認定施設となるため14年9月から、すでに認定を受けている新百合ヶ丘総合病院(川崎市)の協力を受けながら取得を目指し始めた。

県立中央病院で同意を得た早期の子宮体がん患者5人を対象に、新百合ヶ丘総合病院で認定医の指導を受けながら、坂本医長が手術を実施。県立中央病院の手術部スタッフも同行し、技術や安全管理のノウハウを学んだ。施設認定取得後、県立中央病院内でもすでに8例の手術を行っている。

### 婦人科手術の創部の比較



開腹

腹腔鏡

坂本医長は「患者さんのご理解とご協力、手術部スタッフの迅速な対応が、短期間での認定取得につながったと考えられ、とても感謝している。良性腫瘍だけでなく、婦人科がんでもおなかを大きく切らずに治療する時代となってきた。今後も安全性を保ちつつ、技術の向上と普及を進めたい」と話している。

「第4木曜日」に掲載します